

対話で進める合意形成

9 高校 300 人 WS に挑戦

西条・丹原高

S)を通して、さまざまな意見をくみ取り合意を形成する大切さを学んだ。

対話を通して生徒の主体性を育むルールメイキングプロジェクトのイベントが3日、西条市丹原町願連寺の丹原高校であった。東予地域を中心に市内外9校の高校生約300人が、ワークショップ(W

プロジェクトは、認定NPO法人「カタリバ」(東京)が全国で展開し、丹原高で20

22年から取り組んでいる。今回は6人前後のグループをつくり、ペットボトルやスポンジなど、身近な生活用品を組み合わせたオリ

ジナルの掃除道具をテーマに議論した。

生徒は「子どもが掃除を楽しく感じられる要素を入れたい」などと意見を出し合い、実際に道具を製作。釣りざおの形をしたほり取りや、ペットボトルと紙を使って直接触れることなく虫を捕まえる用具などを発表した。

丹原高3年長谷部蓮さん(18)は「一つの目的に向かって意見を出し合う中で、他人の考えを尊重する大切さを学ぶことができた」と充実した様子。ルールメイキングを初めて体験した川之江高3年川井双葉さん(17)は「コミュニケーション力や聴く力が身につくと感じた。学校でも学年の垣根を越えた交流の一つとして取り組んでみたい」と話した。

(伊藤義樹)

【紙面編集】本橋隆太



ルールメイキングのワークショップでオリジナルの掃除道具を作る生徒